＜市民討議用ドラフト（未完成版）＞ あなたの声で完成させる、7つの政策提案・第1次公開草案

## 【政策提案 No.2】ピアサポート、自己肯定感向上サポート ～NFTデジタルバッジ制度～

【身体・生命を守る】医療・健康防衛｜【チャレンジスピリット】若者の挑戦と自己肯定感の育成｜自己肯定感＝「自分で判断した行動の数」と定義。正解主義の受動脳を脱却し、探究学習や挑戦・失敗（のびしろ）を生涯の資産に変える「五方よし」の次世代共創エコシステム

**【概要（Executive Summary）】**

激変する現代社会において、正解ばかりを追い求める「受動脳」や画一的偏差値教育は、若者の自己肯定感低下と就職後の早期離職・ミスマッチを招いている。これに対し、東海市・知多北部発の**「MentorPro for Education構想」**を社会実装し、探究学習、部活動、地域ボランティア等の挑戦や試行錯誤（のびしろ）を、ブロックチェーン（譲渡不能なSBT/NFT）により改ざん不能な個人主権資産として証明する**「Dバッジ（のびしろライセンス）制度」**を創設する。文科省の「高校生デジタル学修歴（オープンバッジ構想）」に準拠し、客観的な行動ログに基づく評価ロジックと自己主権型データ管理を確立。「バッジを見れば、その子の歩みと個性、挑戦のプロセスがわかる」仕組みで生徒同士のピアサポートを促し、生徒、学校・教員、地域社会、受入企業、保護者の**「五方よし」**を実現し、若者が誇りを持って未来を拓く「才能の交差点・心のインフラ」を構築する。

**【政策提言体系整理】**

| 構成項目 | 主要論点・政策思想（キーワード・具体策） |
|---|---|
| 1. 政策背景・構造課題<br>（なぜ今必要か） | ① **「正解主義（受動脳）」による自己肯定感の危機**：言われた通りに動く受動的教育環境が、「自ら危険を察知し判断する力」と挑戦心を奪う構造的課題。テストの点数や学歴以外の「頑張り」「他者貢献」「試行錯誤のプロセス」が正当に評価されず、自己否定や不登校へ直結。<br>② **採用・就職における深刻なミスマッチと人材流出**：企業の求める人物像と学生の職業理解の乖離による早期離職（3年以内離職の高止まり）と地域からの若年層流出。教員の進路指導負荷の増大と、部活動・地域活動の持続可能性低下（指導者・資金不足）。 |
| 2. 政策アプローチ・内容<br>（具体的施策） | ① **挑戦と失敗を資産化する「自己主権型Dバッジ（NFT/SBT）」の発行**：地域社会実験と連携し、リアルな地域・企業の課題解決ミッションを共同開発（職業体験・探究学習連携）。挑戦回数、転んだ数、自ら判断した行動実績を、他人に譲渡できない「SBTバッジ」として個人のウォレットに記録。学校や企業に依存せず個人が生涯管理する「自己主権型データ管理」を確立。<br>② **「評価ロジックの客観性」とピアサポートによる成長の可視化**：単なる自己申告ではなく、仮説検証の行動ログと多面的な相互承認（教員・メンター・仲間）に基づく客観的評価ロジックを設計。「バッジを見れば挑戦のプロセスがわかる」ポートフォリオを構築し、デジタルギルド（相談所）で失敗を笑い飛ばして再挑戦できる心理的安全性を担保。 |
| 3. 行政の役割・施策<br>（公的支援・制度設計） | ① **文科省「デジタル学修歴（オープンバッジ構想）」連動の公認プログラム導入**：総合的な探究学習等に導入し、国際標準規格準拠のデジタル学修歴として教育委員会がオーソライズ。<br>② **企業・大学との「バッジ活用型・推薦＆採用コンソーシアム」創設**：Dバッジ取得者を市内企業の採用選考や地元大学の総合型選抜（推薦入試）で評価・優遇する官民学協定を締結。<br>③ **プラットフォーム収益還元による「部活動支援基金」の創設**：MentorProプラットフォーム（政策6）の収益の一部を部活動や指導ボランティア支援へ還流し、持続可能な育成財源を確保。 |
| 4. 期待される効果<br>（三方良しのインパクト） | **【東海市・知多北部から全国へ先駆ける『五方よし＋未来人財育成』の波及インパクト】**<br>① **生徒・若者（自己肯定感・主体性の獲得）**：自分で判断した行動の蓄積による確固たる自信、一生モノのキャリア資産、ミスマッチのない進路選択。<br>② **学校・教員（指導の高度化と負荷軽減）**：生徒の主体的な学びの実現、客観的ポートフォリオによる進路指導の効率化、部活・課外活動の活性化。<br>③ **地域・企業・保護者（若者の定着と安心）**：**企業**：点数でない優秀層の早期発見／**地域**：若者の地元愛着（シビックプライド）醸成／**保護者**：子どもの挑戦と成長プロセスの可視化。 |
| 5. ロードマップ<br>（社会実装フェーズ） | ① **Phase I（モデル実証・代表作／～2028年度）**：東海市内および近隣のパイロット高校にて「地域・企業課題×探究学習」を試行、初期Dバッジ発行と評価ロジック検証。<br>② **Phase II（多校展開・進路連携／2029年～2031年）**：市内全中学校・高校へ拡大、地元企業30社・地元大学と連携した「Dバッジ推薦・採用優遇枠」の本格運用開始。<br>③ **Phase III（生涯キャリア統合・社会インフラ化／2032年～）**：政策6（職人MentorPro）と統合。学生時代のDバッジが社会人技術者へとシームレスに引き継がれる先駆モデルの確立。 |

出典：市民ボランティア活動「東海クロス・ラボ」7つに政策普及提案【政策提案 No.2】（20261110）